

## 激甚化する豪雨の被害防げ／対策のレベルアップを

大雨の頻度と強度は1980年代の倍に増大しており、私たちは、経験したことのない危機に直面しています。台風等により、都内各所に大雨、洪水、土砂災害警報が出され、中小河川の溢水も起きており、都内で線状降水帯が発生した場合の危険性も考える必要があります。

そこで「多くの人口、産業、資産が集積する東京では、ひとたび洪水等の水害に見舞われれば被害は甚大であり、対策のレベルアップが急務」と知事に求めました。

**知事は** 「ハード、ソフト両面から施策を強化するなど、年度内にプロジェクトのアップグレードを図る」と答弁しました。



## ChatGPTなど生成AI活用 都民への還元、個人情報保護が必要



厚生委員会で質問

Chat(チャット)GPTなど、画像や文章を出力することができる生成AI(ジエネレーティブAI)を導入する自治体や企業が増えています。知事も都での導入に前向きな姿勢を示しています。

都議会立憲民主党は、行政が生成AIを利用するには、導入効果の都民還元、正確性、説明責任や透明性、機密情報や個人情報保護など、課題への対応が必要と考えています。

そこで、「行政計画や議会答弁などの資料作成にも認めていくのか」と生成AIについての知事の考え方を質しました。

**知事は** 「プラス面とマイナス面を見極め活用することが重要。ガイドライン策定や安全な利用環境を整備し、8月には全局で利用を開始する」と答えました。(8月23日から学校職員を含む約5万人の都職員が業務で使用)

### 地元要望への取り組み

#### ホームドア

小平市内には鉄道駅が7つ(周辺市合わせて9つ)ありますが、いずれの駅にもホームドアが設置されておらず、委員会等で東京都へ整備を要望していました。

2023年5月、西武鉄道が「小平駅」「花小金井駅」へのホームドア設置を検討することを発表。しかし整備時期は未定です。早期実現を要望していきます。

### 竹井ようこ事務所

皆様の都政へのご意見・ご要望をお気軽にお寄せください!

〒187-0041 小平市美園町1-1-15-102

TEL&FAX 042-207-1232

E-mail info@takeiyoko.com

WEB竹井ようこ 検索



WEBサイト

東京都議会議員 小平市選出

# 竹井ようこ

東京都議会立憲民主党

つながって、  
ささえあう東京へ



発行： 東京都議会立憲民主党  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1  
TEL.03-5320-7230 FAX.03-5388-1784

## 今よりもっと。ずっと子育てしやすい東京に 給食無償化・所得制限撤廃・保育・教員確保・賃上げ

令和5年東京都議会第2回定例会のご報告です。

今定例会には、新型コロナの「5類」移行後における医療提供体制の整備や物価高対策等を盛り込んだ6月補正予算案などが、提案されました。

東京都議会立憲民主党は、東京都の新型コロナ対策の検証、学校給食の無償化、018サポート事業(東京都版子ども手当)の恒久化などの政策を提案、また、持続的な賃上げ、激甚化する風水害対策などについて知事に答弁を求めるが、一部の質問に対して、残念ながら知事が答弁をしないという場面も見られました。

ここでは都議会本会議での代表質問から抜粋してご報告いたします。

ご一読いただき、都政へのご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです。



### 学校給食の無償化を！ 知事は答弁を拒否



会派を代表して討論

学校給食を無償化する都内自治体が増える(※)なか、財政力の違いなどから、無償にできない自治体もあります。小平市も実施できません。都議会立憲民主党は「新たな自治体間格差(特に多摩格差)にしてはならない」として「都が率先して給食の無償化に取り組むべき」と知事に質しました。

**しかし** 知事は答弁に立たず、代わって教育長が「国の責任と負担で行うべき」と答弁しました。

そこで再度「給食の無償化は、自治体の首長が自らの言葉で有権者に発表、説明している。教育長ではない。改めて給食無償化を打ち出すべき」と質問しましたが、**知事は答弁を拒否しました**。

私は討論で「『国がやらないから都がお手本を示す』と言って小池知事は018サポート事業(後述)を始めた。給食費の無償化も同様に積極果敢に願いたい」と申し述べました。

※2023年6月末時点で19区1市5町村で実施

(今年度実施予定自治体と、第2子・第3子以降のみを無償とする自治体を含む)

自 中面につづく →

## 018サポートの恒久化～子育て世帯への経済的応援～



都議会立憲民主党は、教育を含めた子育て支援は、社会全体で支えるべきと考えています。そのため、私立学校授業料をはじめ、都立大学の授業料無償化での所得制限撤廃や大学生も含めた奨学金制度の創設などを求めています。

特に、0歳から18歳まで子どもに毎月5千円を支給する018サポート事業（東京都版子ども手当）では「**単年度で終わりとするのではなく、恒久化すべき**」と知事に求めました。

しかし

知事は答弁せず、代わりに局長が答弁し、恒久化の必要性について答えませんでした。

都議会立憲民主党は、**引き続き、子育て世帯の経済的負担軽減**に向けて取り組んでいきます。

ゼロ イチ ハチ  
018  
サポート

- 対象／都内に在住する18歳以下の子ども
- 支給額／月額 5,000円（年額6万円）（所得制限なし。令和6年1月に一括で支給予定。）
- 問い合わせ先／018サポート給付金コールセンター TEL.0570-082-018



## すべての子どもを受け入れるインクルーシブ保育推進を

都議会立憲民主党は、保育の質の向上が求められる中、今後の保育は「子どものため」の視点に立ち「子どもの最善の利益」を軸に施策を展開する必要があると考えています。

そこで、今後は「**年齢や国籍、障害の有無にかかわらず、すべての子どもを同じ場所で受け入れるインクルーシブ保育を推進するべき**」と、知事に見解を問いました。

知事は

「子どもと子育て家庭を支援するため、区市町村や保育事業者と連携し、保育サービスの充実に取り組む」



との内容にとどまりました。都議会立憲民主党は、**引き続き実現に向けて取り組みます。**

## 教員目指す人を増やそう／負担軽減などあらゆる手立てを！

今年4月時点の都内公立学校の教員の欠員は約80人ですが、昨年度同様、9月には2.5倍に膨れ上がるこれが懸念されます。都議会立憲民主党は、国における給特法廃止や外部人材確保などの抜本的な見直しに加えて、都においても「**メンタルヘルスの推進や教員の負担軽減を図るなど、あらゆる手立てを講じて、教員を目指す人を増やす必要がある**」と問いました。



都は

「校務のDX化や外部人材の活用など教員の負担を軽減」「安心して働き続けられるようアウトリーチ型相談事業を、小学校の全ての新規採用教員に拡大」など、教員志望者の拡大に取組むと答弁しました。

都議会立憲民主党は**引き続き、公教育の充実に取り組みます。**

## 尊厳を保って暮らせる家族も支える認知症施策

当事者から、認知症のBPSD（行動・心理症状）は福祉の現場でも理解が不十分との声があります。都議会立憲民主党は、「**認知症の人が尊厳を保ち、希望を持って暮らせるよう、症状の理解や地域での受け入れ促進、当事者や家族が孤立しない積極的な支援**」を求めました。

都は

「**今年度予定している次期高齢者保健福祉計画策定**に向け、認知症施策の推進について検討する旨、答弁しました。

私たちは、当事者の皆さまのご意見を踏まえ、**認知症施策の一層の推進**を求めていきます。



## 持続的な賃上げへ中小企業へのさらなる支援を



ポストコロナの行動制限緩和により経済活動が回復しているにもかかわらず、実質賃金が低下し続けています。都議会立憲民主党は、**持続的な賃上げ**に向けた中小企業へのさらなる支援について、知事に対応を求めました。

知事は

「中小企業の経営環境を取り巻く様々な状況を踏まえ、適切な施策を行うことは重要」としたうえで、「**都は中小企業が適正な条件で取引をする後押しのほか、生産性の向上や賃上げに役立つ支援を行っている**」と答弁しました。

都議会立憲民主党は、持続的な賃上げの実現に向けて、**引き続き、中小企業支援の拡充**に取組みます。

## 脱炭素社会実現へ次世代太陽電池実用化を促進

脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの活用を一層進める必要があります。

都議会立憲民主党は、次世代太陽電池であるペロブスカイト太陽電池を視察。既存の太陽電池に比べ、薄く軽く曲げられる特性を持ち、壁面や車の屋根など設置場所の選択肢が広がります。

知事に対し「**次世代太陽電池の実用化促進と普及拡大の後押し**」を求めました。



知事は

「日本で生まれた技術であり、国内に豊富なヨウ素が主原料であるなど高い競争力が期待される」「**普及の後押しを図りながら都内電力の脱炭素化につなげる**」と答弁しました。

ペロブスカイト太陽電池実証実験  
(森ヶ崎水再生センター)